

令和 3 年 6 月 15 日現在

機関番号：16201

研究種目：基盤研究(C) (一般)

研究期間：2017～2020

課題番号：17K12291

研究課題名(和文) 妊娠～授乳期女性の専門医受診行動を高める、産科看護師教育プログラムの開発

研究課題名(英文) Development of an obstetric nurse education program to enhance the behavior of pregnant and lactating women to see a specialist.

研究代表者

石上 悦子 (Ishigami, Etsuko)

香川大学・医学部・准教授

研究者番号：00624983

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 1,200,000円

研究成果の概要(和文)：PABC(妊娠関連乳がん)は稀な疾患のため国内外とも看研究は少ないが、PABC患者の増加が懸念されている。

若年乳がん患者は、ライフイベント(結婚、出産、子育て等)や役割中断により強い不安にさらされ、余命告知後の行動は個性が強く介入しづらく、家族の影響が強く患者の意思が軽視されがちと、乳腺領域看護師はとらえていた。この研究は、PABC患者への支援と乳がん検診の啓蒙が非常に不十分であるという現在の状況下では、助産師がこれらの役割を果たすことが期待されていることを明らかにしている。PABC患者の対応や乳がん検診の啓蒙は、助産師に期待していることが明らかになった。

研究成果の学術的意義や社会的意義

PABCは乳がんの中でも悪性で、特に産褥期PABCは受診遅延者が多く、発見の遅れから死亡率の高い疾患である。助産師は乳がんの危険性を知りながらも知識不足のために患者からの相談にのることができずにいた。この研究により助産師はPABCの正しい知識 - 特に妊娠期でも乳がん検査と治療が可能であると患者に知識提供できることは、専門医の受診遅延を回避できPABCの早期発見につなげることが可能である。PABCは稀な疾患であるが、今後は増加することが予想されており、患者にとってたいへん意義のある研究である。

研究成果の概要(英文)：Since PABC (pregnancy-associated breast cancer) is one of rare diseases, studies on PABC in medical and nursing area are few not only in Japan but also overseas. Meanwhile, it is strongly concerned that the number of PABC patients will increase. Young breast cancer patients face various anxieties due to life events (marriage, child-birth, child-raising, and so on) and role interruptions. As their behaviors after the announcement of life expectancy are strongly individualized, it is difficult for medical staff to deal with them medically and mentally. Their family members influentially interfere in the process of caring for PABC patients to neglect patient's intention. This study reveals that under the current situation that the support for PABC patients and the enlightenment of breast cancer screening are so much inadequate, midwives are expected to take these roles.

研究分野：臨床看護学

キーワード：乳がん PABC 若年 助産師

1. 研究開始当初の背景

戦後、日本の乳がん罹患率・死亡率は増加を続け、成人女性の主な死亡原因でもある。晩産化が進み、女性の出産年齢と乳がん好発年齢が重なりつつある。妊娠中または授乳中に乳がんと診断される妊娠関連乳がん「PABC (pregnancy associated breast cancer)」(以下 PABC とする)は、病状が進行した状態でみつかることが多く、死亡率が高い。特に産褥期に発見される PABC 患者の受診遅延は問題である。(乳がん診療ガイドライン 2018)。

先行研究では乳がん早期発見のセルフチェック研究が多く、また乳がん歴のない妊産褥婦を対象とした乳がんの研究に関しては、事例紹介が散見するのみであった。妊産褥婦の乳房に触れる場面や、患者から相談される機会が多い助産師は、PABC 早期発見へつながる看護実践者として適任である。しかし助産師は PABC に関する知識が不足しており、PABC を疑った後の行動が個人の能力にゆだねられ、乳がんに関する教育の場を欲していると、筆者は研究にて明らかにしていた。以上のことから、PABC 患者が専門医を早期に受診できる方法を探し、助産師の活用を検討したいと考えた。

2. 研究の目的

本研究では以下の3点を明確にすることを目的として研究を開始したが、研究を進めるにあたり、の着眼点も取り入れ、目的を4つとした。

増加を続けているが稀な疾患である PABC について、海外及び日本における現状や課題を明確にする。

受診遅延のために進行乳がんとして発見されやすい PABC 患者が、専門医受診に至るまでの現状を明確にする。

若年乳がん患者を含めた PABC 患者早期発見のため女性に提供すべき情報を明確にし、助産師へ啓発する。

若年乳がん患者の最大の懸念事項である子供との関係について現状を調べる。

3. 研究の方法

PABC 患者早期発見を目指し女性に提供すべき情報を明確にし、受診遅延を回避する方法を検討するため、PABC の動向と国内外の現状についての文献検討、PABC 患者の経験を聞き取り調査、PABC 患者を担当した医療従事者(医師・看護師・助産師)の経験を聞き取り調査、助産師への啓発活動を実施した。

1) 文献検討

PABC に関する和文献レビュー：PABC に関する研究の現状と動向を明らかにし、看護の示唆を得るために、医中誌にて「PABC」、「乳がん」、「妊娠 or 産褥 or 授乳」、「産科」、「助産師」について検索を行った。87 の論文を概観し、49 文献を対象文献としてレビューした。さらに「PABC」、「看護」のキーワードで 12 文献を対象として文献レビューを行った。

PABC に関する英文献レビュー：PubMed と CHINAHL にて「PABC」、「patient」のキーワードを 5 年以内で検索し、47 件の文献レビューを行った。

PABC 患者を含む子育て期にある乳がん患者と子どもとの関係を知るために、国内文献を医中誌にて「乳がん」「子供」「親」「コミュニケーション」or「告知」の検索式で。海外文献は PubMed と CHINAHL にて “breastcancer” “parent” “children” (“communication” or “information”) の検索式で検索を行った。英文献・和文献共に 6 文献を対象として文献レビューを行った。

2) 聞き取り調査

(1) PABC 患者からの聞き取り：PABC 患者 2 名から、乳がんの気づきから専門医受診に至るまでの経過と、現在までの経験と思いについて聞き取り調査を行った。

(2) 医療従事者からの聞き取り：PABC 患者を担当した経験のある医療従事者 14 名から、担当した経験と若年乳がん患者に対する思いについて聞き取り調査を行った。

聞き取り調査は半構造化面接法で一人 30 分から 90 分程度の時間で、逐語録を作成し PABC と若年乳がん患者に対する経験と意識に関する記述を抽出し、M-GTA の手法で分析ワークシートを作成し、生成された概念の関連を検討した。

3) 助産師への啓発活動

(1) 研修会の開催：

助産師を対象に PABC について研究成果の報告を助産師への啓蒙とした。

(2) 小冊子の作成

当初の計画では、病院施設にて助産師を対象に PABC について研修を実施し、病棟スタッフと共にプログラムを作成する予定であった。コロナウイルス感染症 (COVID-19) 予防対策のため、

計画を小冊子の作成と変更した。

4. 研究成果

1) 文献検討

PABC に関する文献レビュー

・和文献の文献レビュー

PABC の看護文献は最近増加傾向にあるが、PABC 患者本人からの質的研究がほとんどなされていなかった。PABC に関する産科領域看護師の教育が求められているとわかった。

PABC 文献の内容は、【インフォームドコンセントに対する意志決定支援】、【PABC 患者と配偶者が親役割を獲得する過程】、【産褥期乳がんの早期発見方法の模索】、【看護師向けの啓発リーフレット作成】であった。

・英文献の文献レビュー

主担当者の国籍は 21 개국で、米国 9 件を筆頭に、インド 5 件、フランス・イスラエル・中国・韓国 4 件、ドイツ・スペイン 2 件、その他の 13 개국は 1 件であった。文献の主内容は疫学 16 件、病理検査 9 件、治療方法 7 件、検査方法 5 件、妊孕性 2 件、症例報告 1 件と、解説 3 件であった。先進国では検査・治療方法について書かれた論文が多く、それ以外の国は、PABC の疫学がほとんどで、症例の増加を危惧する内容が多かった。看護に関する文献は、日本同様で多くは見られなかった。

乳がん患者が子どもへ告知する文献のレビュー

文献の構成要素は【告知は子供の保護 / 親の義務】【告知に影響する要因（告知の意思決定過程）】【具体的な告知の内容】【医療従事者の告知に対する課題】に分類され、日本と欧米の明確な差はなかった。子供への告知という行為は、是非に関わらず【子供の保護】のためになされていた。また欧米では告知を【子供の知る権利】としても捉える傾向にあり、日本では子供の権利に関心が薄かった。

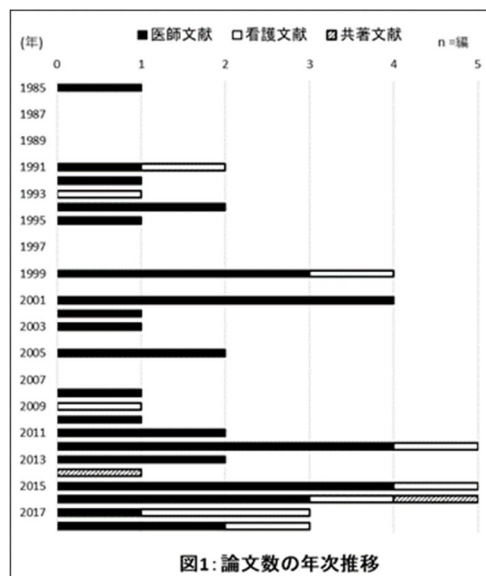


図1: 論文数の年次推移

2) 聞き取り調査

(1) 外科病棟看護師の若年乳がん患者に対する意識の分析

乳腺内分泌外科病棟で働く看護師は、若年者の【乳がん検診の障害】を憂慮していた。看護師は若年乳がん患者を、【潜在的強い不安】を持ち【ライフイベントと役割の中断】状態にあると認識していた。患者の【家族の苦悩】は強く、患者が母親である時は【子への慈愛】に苦悩しており、【助産師との協働】も必要と考えていた。さらに患者の【余命告知後の葛藤と行動】を理解しようとしていた。

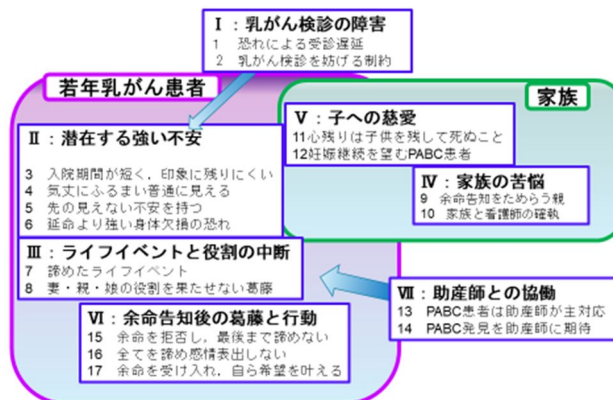


図2 看護師の捉えた若年乳がん患者

3) 助産師への啓蒙活動

(1) 研修会の開催

2019年10月20日 香川県助産師会 研修「授乳期の乳がん」

タイトル『助産師と乳がん』

内容：授乳期の乳がん（PABC）の疫学 研究の結果と課題を報告した。

(2) 小冊子の作成

当初、施設での研修を実施する予定であったが、新型コロナウイルス感染症（COVID-19）予防対策のため、計画を変更する必要が生じた。産科看護師・助産師に、PABC と AYA 世代乳がんの疫学や症状、周産期に可能な乳がんの検査・治療、妊娠中絶の選択への回答、助産師に期待される職能などを記載した小冊子を作製した。現在、施設にて冊子発行の許可を待つ状況である。

4) その他

PABC 患者の聞き取り調査数が当初予定よりも少ない 2 件しか実施できなかった。研究協力者から協力を得ながら対象者を探したが、4 件から断りの連絡があった。理由としては出産前や分娩直後で今後の見通しが立っていないこと、妊娠中絶の選択をしたため、患者の動揺が強かったこと、等である。また新型コロナウイルス感染症（COVID-19）予防対策のため、対象者を増やすことができなかった。

研究を進めるにつれ PABC 患者と若年乳がん患者である AYA (adolescents and young adults)

世代乳がん患者は、希少性、年齢、医学的問題点、社会的問題点などの類似性が強く、AYA 世代乳がん患者に PABC 患者が内在されている事と、乳腺専門領域に働く医療従事者にとってはほぼ同様、または PABC 患者の極端な希少性から、AYA 世代乳がん患者の印象が強いことを考慮して聞き取りを行う必要が生じた。分析の過程で PABC と AYA 世代乳がんについて選択してまとめた。

現在、聞き取り調査として PABC 患者を受け持った医療従事者の経験について、論文発表の準備中である。その後、PABC 患者自身からの聞き取りについても発表の予定である。

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計1件（うち査読付論文 1件/うち国際共著 0件/うちオープンアクセス 1件）

1. 著者名 石上悦子, 佐々木睦子, 小松千佳	4. 巻 23(1)
2. 論文標題 わが国における妊娠関連乳がん（PABC）看護の動向に関する文献検討	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 香川大学看護雑誌	6. 最初と最後の頁 71-78
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 -

〔学会発表〕 計3件（うち招待講演 0件/うち国際学会 0件）

1. 発表者名 石上悦子
2. 発表標題 外科病棟看護師の若年乳がん患者に対する意識の分析
3. 学会等名 日本看護研究学会
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 石上悦子
2. 発表標題 子育て期にある乳がん患者の子供への告知に関する文献研究
3. 学会等名 日本看護研究学会
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 石上悦子, 佐々木睦子
2. 発表標題 妊娠関連乳がんに焦点をあてた文献研究
3. 学会等名 日本看護研究学会中国・四国地方海 第32回学術集会
4. 発表年 2019年

〔図書〕 計0件

〔産業財産権〕

〔その他〕

-

6. 研究組織

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
研究 分担者	佐々木 睦子 (Sasaki Mutsuko) (90403782)	香川大学・医学部・教授 (16201)	

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
研究 協力者	紺谷 桂一 (Kontani Keiichi)	香川大学・医学部・准教授 (16201)	

7. 科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕 計0件

8. 本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

共同研究相手国	相手方研究機関
---------	---------